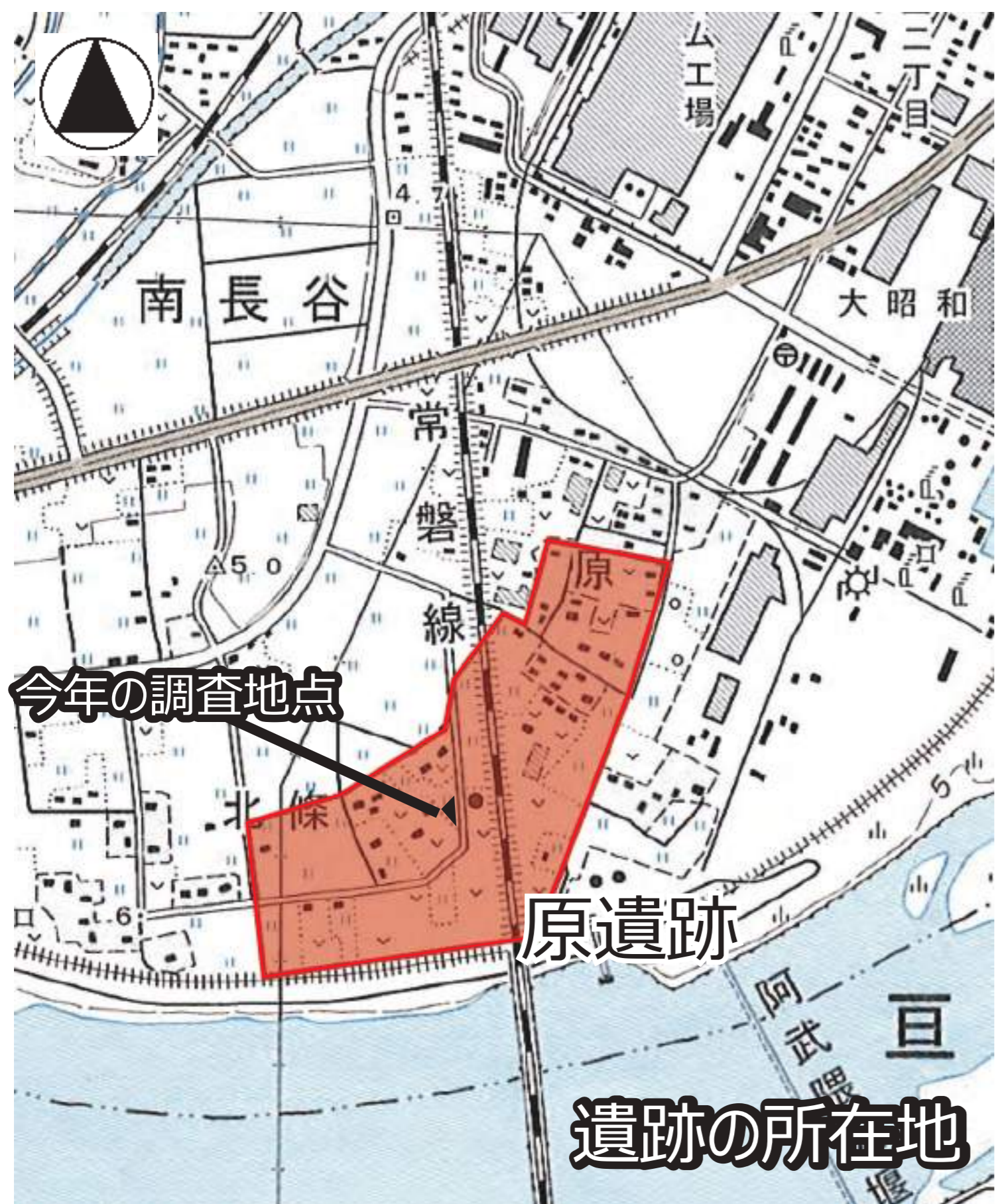




特殊な大穴のナゾ

⑤原遺跡（岩沼市南長谷）



岩沼市南部の阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、奈良・平安時代の交通拠点である「玉前駅家」または「関」と推定されている遺跡です。

平成 28 年度以降、遺跡の実態を明らかにするための発掘調査が、岩沼市教育委員会によって継続的に実施されています。

今回の調査では、大型の穴（土坑）などが確認され、貯蔵のための施設がそなえられている可能性が明らかになってきました。

駅家…都から来た使者が馬を乗り継いだり、休憩したりする施設。
関…国境や要所で人や物資の往来を取り締まった役所。



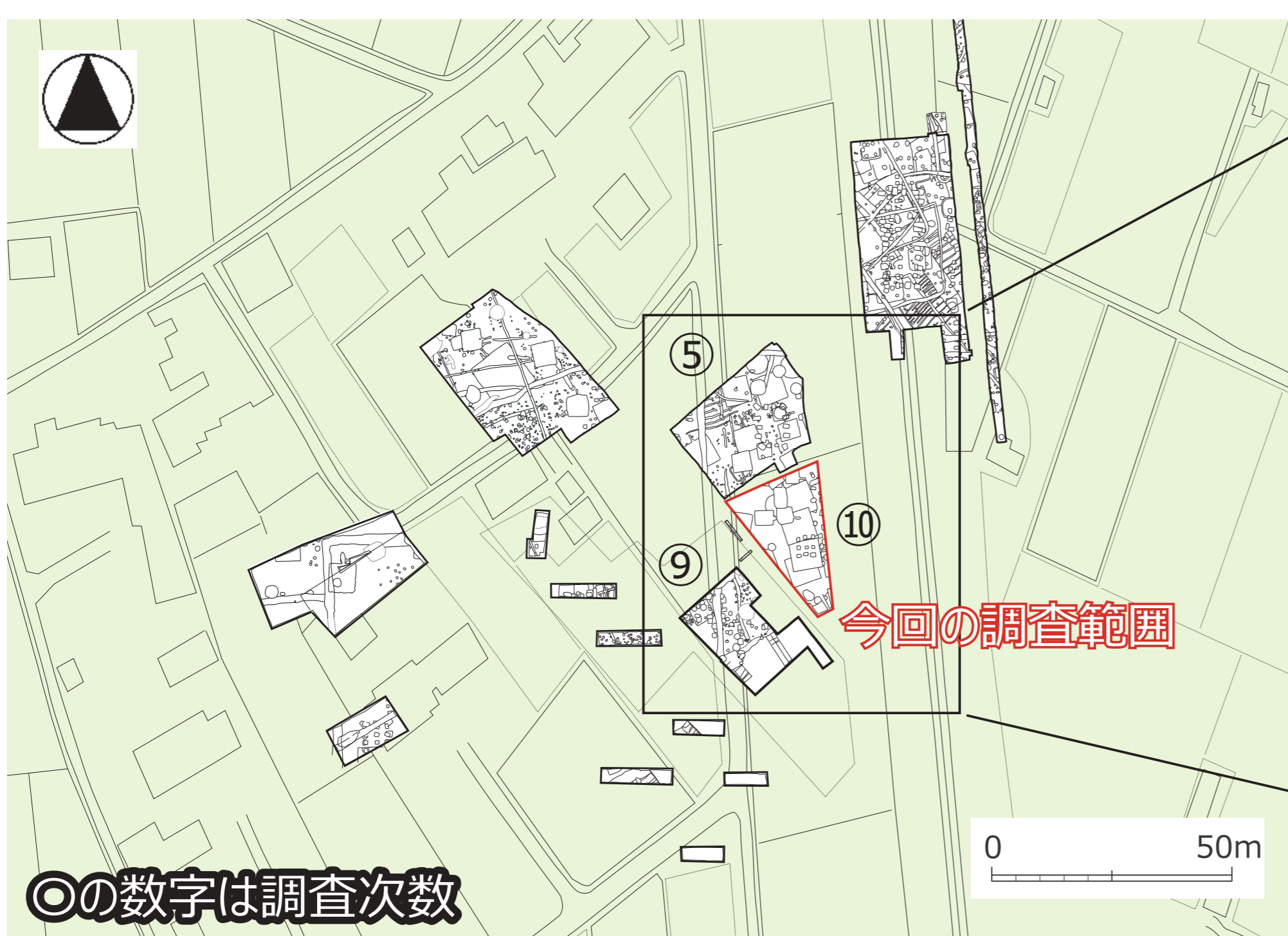
せんでいじょう
尖底状の小さな穴

(東から)

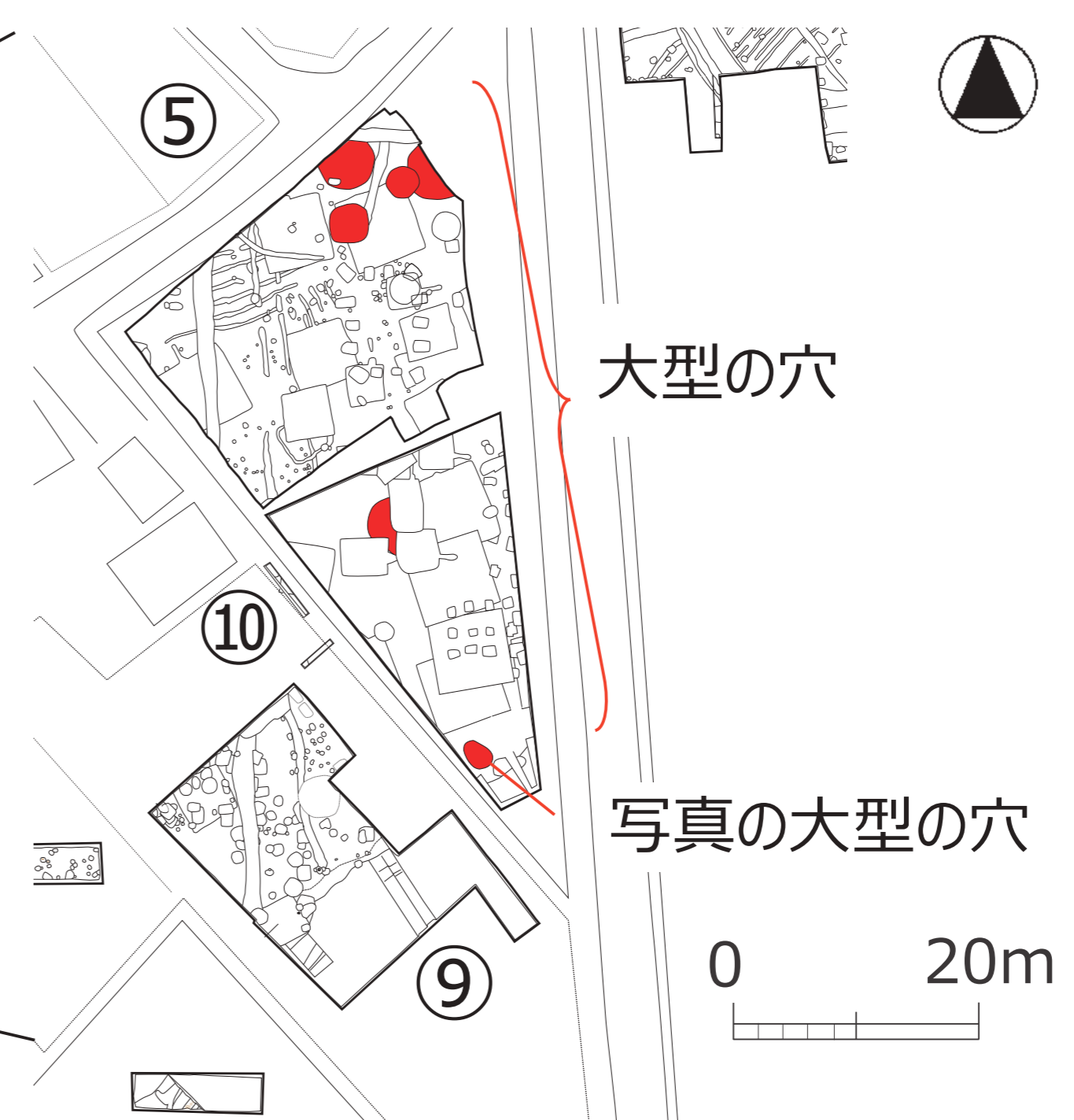
▲ 大型の穴 (長径 2.5m、短径 1.8m、深さ 1.1m、中の土を半分掘った状態)

調査範囲の南側で見つかりました。側壁に段が付き、底の中央部分には、幅 40cm、深さ 22cm ほどの小さな穴が設けられ、断面形は尖ったような形をしています。底部の形状から水抜き機能を備えた貯蔵用の穴の可能性が考えられます。

これまでの調査で、類似した規模の大型の穴とみられる遺構が、周辺から複数見つかり、限られた範囲に分布する様子が見えます。なお、穴の正確な用途はわかりませんが、今回調査したものについてみると、形態的特徴から「氷室 (氷を蓄えておく施設)」の可能性も指摘されています。



▲ 調査区の配置



▲ 大型の穴の分布

協力：岩沼市教育委員会